

小児の画像診断.. 画像診断医が知るべき厳選重要疾患

序説

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 放射線診断学 粟井和夫

私は、小児画像診断が専門ではない。それどころか、放射線科医になって30年になるが、小児の画像診断はいつまでたっても苦手意識が抜けない。しかしながら、小児病院に勤務していなくとも、小児の画像診断の所見を作成することや小児科医とディスカッションしないといけない状況は必ずある。今回の特集は、私と同じように、普段は主に「大人」の画像診断に従事しており、小児画像診断に関しては苦手意識をもっている放射線診断医のために企画した。

本特集では、各領域のエキスパートの先生に、一般病院で遭遇する可能性が高い、あるいは比較的まれであっても重要な疾患を厳選していただいた。そのうえで、各疾患の典型的な画像所見を述べていただくとともに、「この知識を知らないと小児科医あるいは小児外科医と対等に議論できない」という知識も記載していただいた。読者は、本特集を通読することにより、各疾患の画像および臨床事項について重要なポイントを把握でき、小児画像診断に対する苦手意識を払拭できるものと思う。私自身、各論文を読ませていただき、知識をずいぶんブラッシュアップさせていただいた。なお、取り上げる疾患については、『放射線科専門医研修カリキュラムガイドライン』(2014年)に取り上げられている疾患を中心に選択していただいているので、本特集号は放射線科専門医試験のための勉強をしている先生方にもお役に立つのではないと思う。

最後に、大変お忙しいなか、力のこもった素晴らしい原稿を執筆していただいた著者の方々に深謝する。本特集の企画の立案には、私の研究室で小児画像診断を専門としている谷 千尋先生の協力を得た。谷先生に厚く御礼を申し上げる。